

新退教通信

No.183

2021.3.1

新 退 教 職 員 連 絡 協 議 会
Fax 025-281-8146

新型コロナウイルス禍 趣味に生きる



新退教副会長

片 桐 信

令和3年、新しい年を迎え、会員の皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたします。

私も新しい年の誕生日で、退職して17年目、77歳です。毎日が日曜日。そのため、閑つぶしに趣味に遊ぶことにしました。

私の趣味を三つあげるとしたら、囲碁、絵画、写真です。

囲碁は月2回趣味の会で行っています。

絵画は描きたくなった被写体に出会ったときに描いています。

写真は、我が家のぶどう棚に止まった雀を撮ったことが切っ掛けでした。撮った雀の写真を見ると、その生態等を知りたくなり、雀の様子を撮ろうと考えました。雀に近づくと逃げてしまいます。そこで、遠くから雀を撮るために望遠レンズをつけたカメラを持参して、自家用車で雀のいそうな家並みや林に出かけました。

板倉の熊川近辺で多数の雀が電線に止まっているのを見つけ、カメラに収めました。雀を撮る途中、田畑や川や池等いろいろな野鳥を見ることとなり、それらもカメラに収めたくまりました。

灰塚付近の畑で大きな白い鳥の群れを見つけ、野鳥図鑑で調べると、ダイサギ、アオサギでした。また、関川の河口付近でも鴨やサギ類が見られました。近くの高田公園の内堀で黒い水鳥を見つけ調べると川鶺でした。

季節によって、やってくる鳥が違うことを実感をもって知ることになりました。

被写体はコロナウイルスの感染に心配のいらない、言わば、人と接触しないでよい野鳥です。今度は、真冬の1月末頃に飛来する野鳥を写真に撮ることを心待ちにしているこの頃です。

目 次

(敬称略)

1p 巻頭言 片桐 信

2p 新教組です 長岡支部 長 滋徳

魚沼支部 瀧澤 剛志

岩船支部 加藤 僚

佐渡支部 藤井 憲之

現退交流会

新教組委員長 岡島 祐次

副委員長 中島 崇

4p 支部だより 北魚支部 小林 謙一

新潟市支部 上地 源光

糸魚川支部 矢澤 裕子

柏刈支部 小林 公一

三南支部 小山 孝治

新潟五泉支部 佐々木 均

7p みんなの広場 高橋 初敏



水墨画「木槿」
山田美栄子さん (柏刈支部)

「紙上」支部代表者会 & 現退交流会

12月7日に予定されていた支部代表者会と、新教組・新退教の現退交流会は、ウイルス禍で中止を余儀なくされた。このため、支部代表者会での審議事項は、「郵送による書面議決」により承認していただいた。

現退交流会については、岡島委員長・中島副委員長からメッセージが寄せられたので、次ページをご覧いただきたい。

「紙上」支部代表者会より

「50周年記念事業基本計画案」(抄)

○2年後に新退教結成50周年を迎えるので、「記念事業基本計画案」を、支部代表者会や支部事務局長会(3月)等の協議を経て、総会(5月)に提案する。

I 基本的な方向

☆新しい門出をする者には新しい道が開ける みつを

1 ねらい

①50周年を祝うとともに、先輩たちの半世紀の歩みに学び、未来への糧とする。

②過去4回の周年行事も整理し、50年分を記録・資料として残す。

③会員減少時代にあつて、50周年を機に、次世代を担う人材の発掘を図る。

2 基本方針

①読みやすく分かりやすく魅力的な

「50周年記念誌」を発行し、全会員に配付する(従来通り)



40周年記念誌

②できるだけ多くの会員参加を図る

③会員や賛助会員・読者会員にできるだけ還元する(記念誌は賛助会員等にも配付)

④過去の周年行事を尊重しつつ、柔軟思考で英知を結集し、現在にふさわしい50周年事業にする

⑤新退教だからできる「会員のための50周年事業」を目指す

⑥プラス思考で楽しく推進する。

III 組織・運営

1 実行委員会 各支部1人(計14人)と本部役員(11人)の計25人で構成する。

V 予算

①本年度の「行事中止分予算」90+a万円を、50周年記念事業に回す。(臨時積立)

◎皆様の意見や要望等をお寄せください。

こんにちは 新教組です

がんばれ後輩!



長岡支部書記長

長 滋 徳

(長岡市南中)

長岡市では、交渉で求めてきた「働き方改革リーフレット」を発出することになり、検討会で意見を述べました。リーフレットの発行を機に、働き方改革を地域・保護者へ周知し、学校が主体的に業務の見直しを進められる環境にしていきます。そして、支部は、組合員が安心して教育活動に専念できるよう全力で支えていきます。



魚沼支部書記長

瀧 澤 剛 志

(十日町市十日町小)

北魚、中魚、南魚の三支部が統合し、魚沼支部となつて3年目。組織率90%を目標に活動しています。精神的な問題を理由とした病気休職者が年々増加し、教職員採用試験の志願者は激減。講師も不足。感染症の流行もあり、課題が山積みですが、教職員が生き生きと働き続けられるよう、取り組んでまいります。

がんばれ新教組!

現退一致の取り組みで 教育を守ろう



新教組執行委員長
岡 島 祐 次

日頃より、新教組運動に対して多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。本来であれば、現退役員交流会などで先輩方から直接お話を聞きしたかったのですが、大変残念に思っています。

新型コロナウイルスが猛威を振う中、学校現場も翻弄され続けていると感じます。消毒作業など新たな業務が強いられる中、今年度から導入された「時間外勤務の上限規制」について、「上限を超えないよう勤務時間を過少申告している」という声も届いています。子どもたち・教職員の安心・安全を守るためにも、今こそ法改正と大幅な定数増による少人数学級の実現が不可欠です。また教員だけでなく、養護教員・事務職員・学校栄養職員・学校図書館司書・寄宿舎教員などすべての職種で増員されることこそが、最も必要なことだと考えます。

新教組の先輩方は、団結して幾多の困難を乗り越え、新潟県の教育を守り続けてきました。私たちも先輩方に学び、新教組運動の強化・前進に邁進していきます。引き続き現退一致の取り組みで、ご協力をお願いいたします。

教職員の声を議会へ



新教組副執行委員長
中 島 崇

国民を無視した強引な自民党中心の政治を変えるためには、今年10月までに行われる衆議院選挙の取り組みが非常に重要となります。しかし、先の参議院選挙の投票率から見られる組合員の政治への関心の低下や若年層の政治離れは深刻です。組合員の政治意識の高揚を図りながら、要求実現のために身近な政治活動から取り組む必要があります。

また、来年7月に予定されている参議院選挙に、なたにや正義日政連議員は出馬しない意向を表明しました。これを受け、日教組は11月30日の中央委員会にて古賀ちかげさんを組織内候補として推薦決定しています。私たちの思いを反映させるために、学校現場出身者である古賀ちかげさんを国会の場に送り出していかなければなりません。

私たちがめざす民主教育を実現させるためには、現組合員と退職教職員が連携し、戦いを強化していかなければなりません。推薦候補必勝に向け、今後ともご協力をお願いいたします。

こんにちは 新教組です

がんばれ後輩!



岩船支部書記長
加 藤 僚
(村上市村上小)

岩船支部では、組合員の声を大切にし、多忙化解消の取り組み例を情報共有したり、各分会で取り組みに差が生じている実態を訴え、さらなる管理職への指導を求めたりしてきました。

新型コロナウイルスの中、子どもたちのために奮闘する組合員を全力で支えるべく、精一杯努めます。



佐渡支部書記長
藤 井 憲 之
(佐渡市小木小)

組合が力を発揮するためには、組織の強化・拡大が必要不可欠です。

佐渡市では、今年度23人の新採用の教職員を迎えました。昨年12月末に全員が組合に加入し、新採用加入率百パーセントを達成することができました。

これを次年度も続けるために、今後も全力で組織強化・拡大に努めていきます。

がんばれ新教組!



支部からのたより



起死回生の2021に!!



小千谷・魚沼支部 支部長
小林 謙一

魚沼支部は、昭和62年高野正巳支部長と駒形信夫副支部長とで始まり、平成2年までの14年間、現在の支部活動の基を作った。会員の交流を深める親睦旅行は32年間途絶えること無く続いた。また、平成2年「社交ダンスの会」として始め、後に改名した「ダンスの会」や「囲碁サークル」も30年

間続いた。

だが、令和元年に教育会館が当支部の地から離れ、会員は「活動の場がなくなった。新退教は終わった。」と動揺したはず。しかし、それぞれ工夫を凝らしての活動が行われ成果を報告しさらなる展望を提案する時期に、世界を震撼させた新型ウィルスの蔓延のため、支部始まって以来、初の書面決議や2月以降の全ての活動が中止。まだ終息に目処がたたないが、令和3年度総会を普通で開催し、活気ある支部活動のスタートを切りたい。

配食ボランティア



新潟市支部 事務局長
上地 源光

月に6回の配食ボランティアをしています。夕食弁当を10軒ほど受け持っています。直接手渡しして安否確認もします。1人住まいの高齢者が多く、何故か若いお孫さんらしき人が同居の方もいます。参加してから3年くらいになります。この間、施設へ移った方、遠くに住む子どもの元へ行っ

た方がいる一方、新たな配食の依頼も来ます。

訪ねていくと、ゴミ屋敷のような所で不自由な足を引きずり玄関まで来る方、豪華な家にぼつんと一人で暮らしている方など、社会保障制度の貧困を見る思いです。

日本の上位40人の資産は、全世帯の下から53%が保有する資産と同じです。大企業の内部保留は450兆円です。社会保障に回すお金は有り余っています。格差社会からの転換が求められているのではないのでしょうか。

夫とヒスイ



糸魚川支部 副支部長
矢澤 裕子

ヒスイ愛好家の夫は、海が荒れてさえないなければ、雪の日でもヒスイ探しに出かける。だから数だけたくさん持っている。お気に入りの一つに2連石のヒスイがある。貴重で珍しい石だそう、愛好家の間でちょっとした話題になり、新聞にも載った。

ヒスイ探しには他県からも大勢やって来る。散逸してしまうことに懸念を持ち、「糸魚川のヒスイは地元の者が守らなければ。」が口癖。

そんな夫がほぼ同時に2つの病気を発症した。手術が長引き心配していた私を見るなり、「きれいなヒスイを見つけた夢を見ていた。」と宣うた。命は助かったが、歩行の自由は奪われた。それから10か月。懸命のリハビリでフラフラしながらも少し歩けるまでに回復した。退院は近い。すぐにでも海に行くつもりでいるがまだ無理。ゆっくり一歩一歩確実に。